

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシチズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

ルノーと日産のアライアンス

ルノーと日産のアライアンス(提携)は、幅広い分野で戦略的に協力する独自のパートナーシップです。1999年の締結以来、日産はアライアンスを通じて展開地域をグローバルに広げ、経済規模においても大きく飛躍してきました。

2015年のルノー・日産アライアンスのグローバル販売台数は850万台*。世界市場のおよそ10%をルノー・日産アライアンスのクルマが占め、アライアンスは世界の自動車グループのトップ4に入っています。現在、ニッサン、インフィニティ、ダットサン、ヴェヌーシア、ルノー、ルノー・サムスン、ダチア、ラーダ(アフトワズ社)の8ブランドを展開しています。

▶ 露アフトワズ社の販売台数を含む



アライアンスのビジョン

ルノー・日産アライアンスは、自動車業界の中で最も長期間にわたって継続している提携であり、異なる文化と融合しながら最大の効果を生み出しています。2016年3月で18年目に突入したこの独特なパートナーシップは、実際的かつ柔軟なもので、常に新たなプロジェクトに取り組みながら新しいパートナーを受け入れて世界中に拡大してきました。アライアンスは、ドイツのダイムラーAG、三菱自動車、中国での合弁会社である東風汽車有限公司などとも幅広い協力関係を実現しています。また、ロシア国営企業ロステック社(前ロシアン・テクノロジー社)との合弁会社を通じて、ロシア最大の自動車メーカーであるアフトワズ社の株式の過半数を保有しています。

アライアンスの基本的な考え方は、それぞれのブランド・アイデンティティや企業文化を尊重しつつ、株式の相互保有を通して互いの収益向上に積極的に貢献するというものです。現在ルノーは日産株の43.4%、日産はルノー株の15%を保有しています。

2014年4月1日、ルノー・日産アライアンスは、業績を向上させ、シナジーを加速させるために、研究・開発、生産技術・物流、購買、人事の主要4機能を統合しました。各機能はそれぞれのアライアンス副社長が統括します。これらの機能の統合により、アライアンスは2015年に41億ユーロ以上であったシナジー効果を、2018年には55億ユーロにまで増加させることを見込んでいます。

アライアンスの3つの目標

アライアンスは、利益ある成長戦略を策定・実行し、以下3つの項目において、世界の自動車メーカーの中でトップ3に入ることを目指しています。

- 1 技術革新
- 2 収益および営業利益
- 3 製品品質および顧客満足度

革新的技術のリーダーに

アライアンスは、「ゼロ・エミッション車」「コネクテッド・カー」「自動運転車」の3つを重要な戦略の柱に掲げ、技術面で世界の自動車業界をけん引しています。

▶▶ website

ルノー・日産アライアンスに関する詳細はウェブサイトをご覧ください

目次・使い方	はじめに	CEOメッセージ	持続可能なモビリティ社会の実現に向けて	ブルーシズンシップ —日産のCSR—	ルノーと日産のアライアンス	CSRデータ集	第三者保証
環境	安全	社会貢献	品質	バリューチェーン	従業員	経済的貢献	コーポレートガバナンス・内部統制

現在、世界の道路を走る電気自動車(EV)の2台に1台は、ゼロ・エミッションモビリティのグローバルリーダーであるアライアンスのクルマです。2010年12月にアライアンス初のEVである「日産リーフ」を発売して以来、世界で累計33万台以上のEVを販売してきました(2015年12月末時点)。「日産リーフ」は現在に至るまで、世界で最も多く販売されているEVです。

アライアンスは、2015年にパリで開催された国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)でオフィシャルパートナーを務め、国際会議に提供されるEVとしては史上最多となる200台を提供しました。

また2016年1月には、自動運転技術を今後4年間でアライアンスとして10モデル以上に順次搭載する計画を発表しています。



COP21
Photo credit: Olivier Martin-Gambier

「持続可能な発展のための世界経済人会議」への参画

ルノー・日産アライアンスは「持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)」に参画しています。WBCSDは先進的な企業で構成される国際組織で、経済、社会、環境の3分野において持続可能な将来の構築を目指し、世界の産業界をけん引しています。